

(様式 1)

## 平成 24 年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 102	<b>提案機関名</b>	(社) 神奈川県園芸協会（県果樹組合連合会）
<b>要望問題名</b> カキ「太秋」の安定生産技術の確立		
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 カキ「太秋」は直売向けの大果品種として食味も良く大変好評である。しかし、太秋は、他の品種より雌花の着生が少なく、また収穫前に軟化し落果するものが多い傾向が見受けられる近年、樹勢の強い直上側枝を3年間結果枝として利用し、カット前年には側枝に環状剥皮を施し、樹全体のコントロールして安定着果を図る更新技術との組み合わせも出てきた。 予備枝の活用や収穫まで安定着果と肥大効果の確認などを生産安定のための技術改善策の検討を要望します。		
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内	
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター	
<b>備考</b>		

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	果樹花き研究部
<b>対応区分</b>	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b> (①、②、④の場合) (4) 直売向けカキ有望品種の安定生産技術の確立 ア 「太秋」の安定生産技術の確立			
<b>対応の内容等</b>	‘太秋’の課題である安定着果技術については、開心自然形(15年生)および斜立並木仕立て(14年生)において、仕立て法の違いが着果数、収量、品質に及ぼす影響を継続調査しており、安定生産技術に必要な栽培管理について明らかになるものと考えています。 また、22年度よりカキ試験圃場の施肥方法を変え、年間窒素施肥量20.5kgとし、従来の11月元肥1回施肥から、11月(窒素6.5kg)、3月(窒素6.5kg)、6月(窒素7.5kg)の3回に分けての施肥を行う管理に変更しており、このことが‘太秋’の樹勢と安定生産に及ぼす影響について明らかになると考えられます。 また、現在取り組んでいる実用開発事業「果樹ジョイント」の中で、福岡県が‘太秋’のジョイント栽培に取り組んでおり、苗木の育成法や側枝の剪定法などについて検討しています。本研究で得られた知見を‘太秋’の安定生産技術の確立に活用できると考えられます。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
<b>備考</b>			